

**[新刊紹介] 大村嘉人：街なかの地衣類ハンドブック 新書判，80頁．2016年10月10日(文一総合出版)**

著者	中田 政司
著者別表示	Nakata Masashi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	64
号	2
ページ	95-95
発行年	2017-03-01
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00053308">http://doi.org/10.24517/00053308</a>

## 新刊紹介

○大村嘉人：街なかの地衣類ハンドブック 新書判，80頁．2016年10月10日．文一総合出版．本体1400円．

国立科学博物館植物研究部の研究主幹である著者が「地衣類の地位向上」を目指して、なじみの薄い地衣類を身近に感じてもらうために書き下ろした地衣類の入門書である。

私たちが暮らしている市街地のコンクリートや石垣の上、街路樹や公園木の樹皮にも、よく見るとたくさんの地衣類が生活している。地衣類への理解はまず名前を知ることから始まるというわけで、都市部でよく見られる58種の地衣類について、遠目で見た色合いで黄、黄緑、緑、暗色、灰緑、白に大きく分類し、1頁または半頁に1種の割合で、生育環境、全体の形、特徴が分かる拡大写真によって絵合わせで名前が調べられるようになっている。もちろん正確な同定には、顕微鏡レベルの観察や化学成分の検出は不可欠だが、アマチュアのアナチュラリストや、インタープリターには十分な内容と思われる。

本のはじめには「地衣類とは」、「地衣類の多様性」、「地衣類と間違われやすい生物」、「地衣類の形態」、「地衣体表面の構造および付属器官」、「地衣類の繁殖」、「ルーペを使おう」、「呈色反応」などの簡単な解説があり、図鑑として使う時に必要な基礎知識を得ることができる。また、図鑑の後には「地衣類を栽培してみよう!」、「地衣類でロウソクを染めてみよう!」、「リトマス試験紙を作ろう!」といった地衣類を教材とする実験・観察の方法が写真で紹介されており、そのまま博物館・植物園などの催物として活用できる。この本で地衣類に興味を持ち、これから採集・同定を始めようかという人には、続く「地衣類の化学成分の検出」、「地衣類の採集と標本」の頁と、参考書籍、参考ウェブサイトの紹介がある。「地衣類Q & A」のコーナーでは、一般の人が疑問に思う「地衣類は木を枯らしますか?」、「食べられる地衣類はありますか?」などの質問とその答えがまとめられており、とても親しみやすい。最後の質問、「テレビを見ているとき番組内容よりも映っている地衣類の方が気になってしまいます。変でしょうか?」に対する回答が秀逸である。

(中田政司)



